

第8章 自殺対策計画

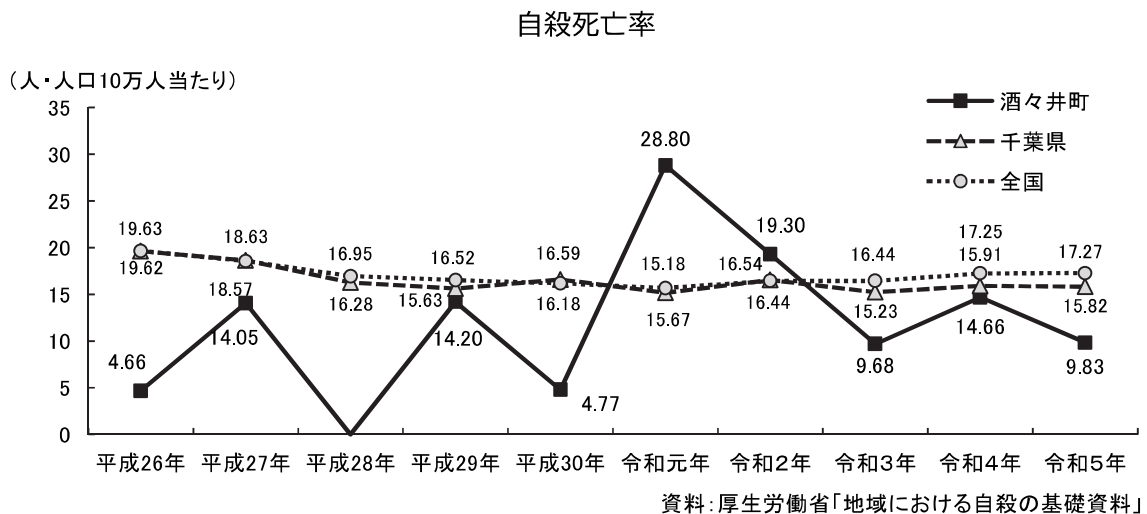
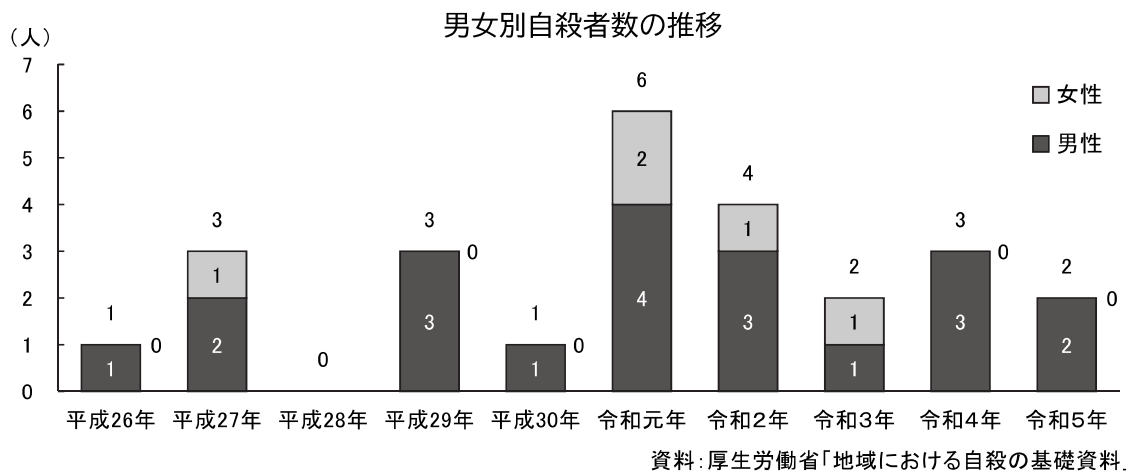
施策の方向性1 いのち支える自殺対策の推進

自殺を防ぐためには、自殺に追い込まれようとしている人が安心して生きられるよう、精神保健の視点だけでなく、社会・経済的な視点を含む包括的な取組みが重要となります。また、相談窓口が自殺予防の包括的な支援の入り口となるよう相談支援の充実を図ります。

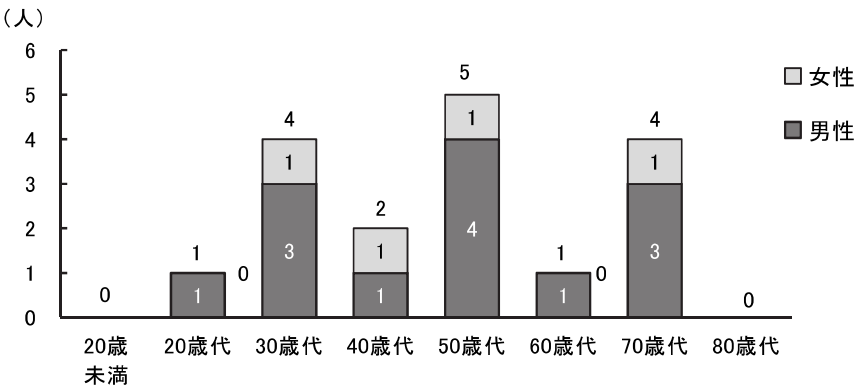
◇ 現状

〈統計データ〉

自殺者数は、この10年間で令和元年の6人が最も多く、令和2年以降は2～4人で推移しています。人口10万人当たりの自殺者数である自殺死亡率は、令和元年、2年を除いて千葉県・全国を下回る水準で推移しています。



年代別自殺者数（令和元年～令和5年の5年間累計）



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

全国を100とした標準化死亡比は、男性は増加していますが、千葉県より低く、全国水準を下回っています。女性は増減があり、平成30年～令和4年は104.4と全国水準を上回っています。

自殺の標準化死亡比（バイズ推定値）（平成20年～令和4年）

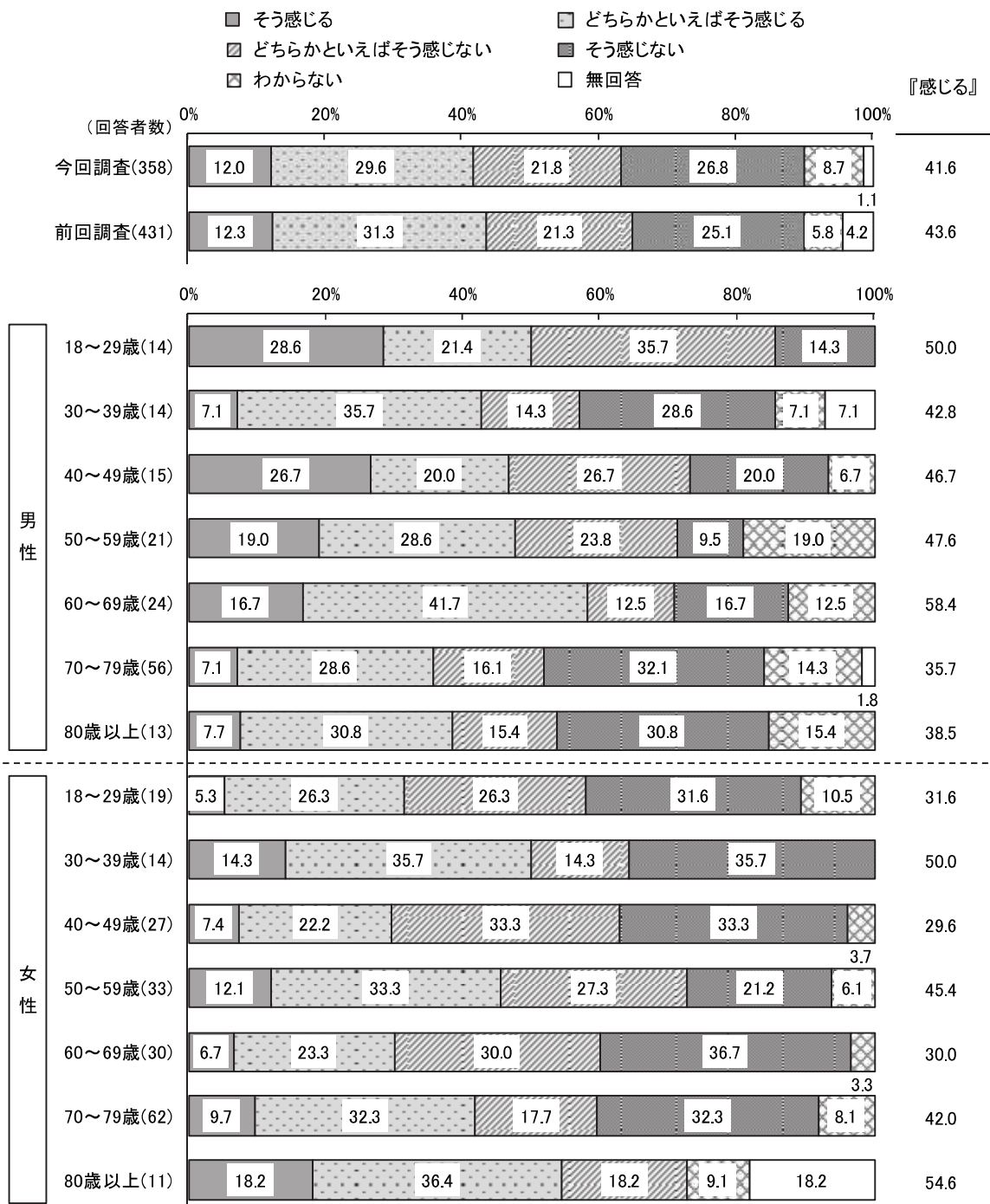
全国＝100	男性		女性	
	酒々井町	千葉県	酒々井町	千葉県
平成20年～平成24年	74.4	89.7	117.6	96.5
平成25年～平成29年	84.0	98.2	96.5	102.3
平成30年～令和4年	96.2	97.1	104.4	106.2

資料：人口動態保健所・市区町村別統計

〈町民アンケート調査〉

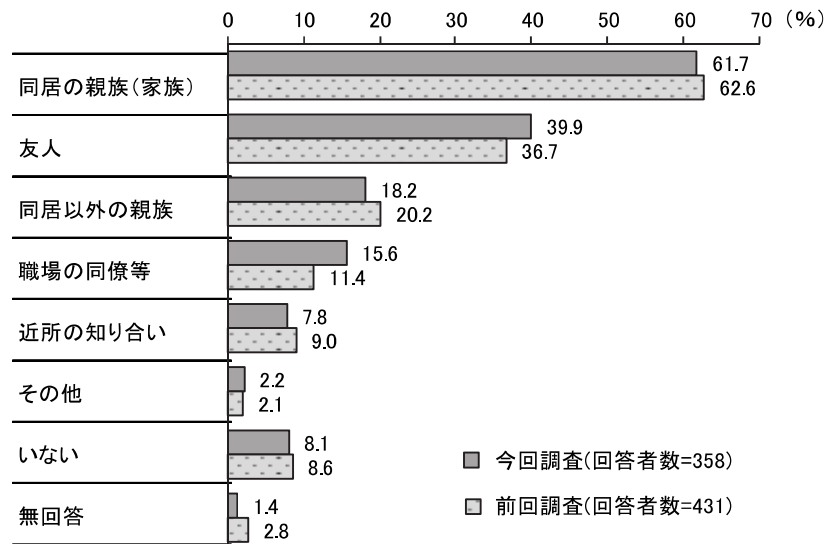
悩みを抱えた時やストレスを感じた時に、誰かに相談したり、助けを求めることのためらいを「そう感じる」「どちらかといえばそう感じる」を合わせた『感じる』は41.6%と前回調査43.6%をやや下回ります。性・年代別では、男性は60歳代の58.4%、18～29歳の50.0%、女性は80歳以上の54.6%、30歳代の50.0%で高い割合となっています。

助けや相談を求めることへのためらいを感じるか



不安や悩み・つらい気持ちを受け止め、耳を傾けてくれる人は、「同居の親族」が61.7%。「友人」39.9%と続き、前回調査と同程度となっています。一方で、「いない」については8.1%となっています。

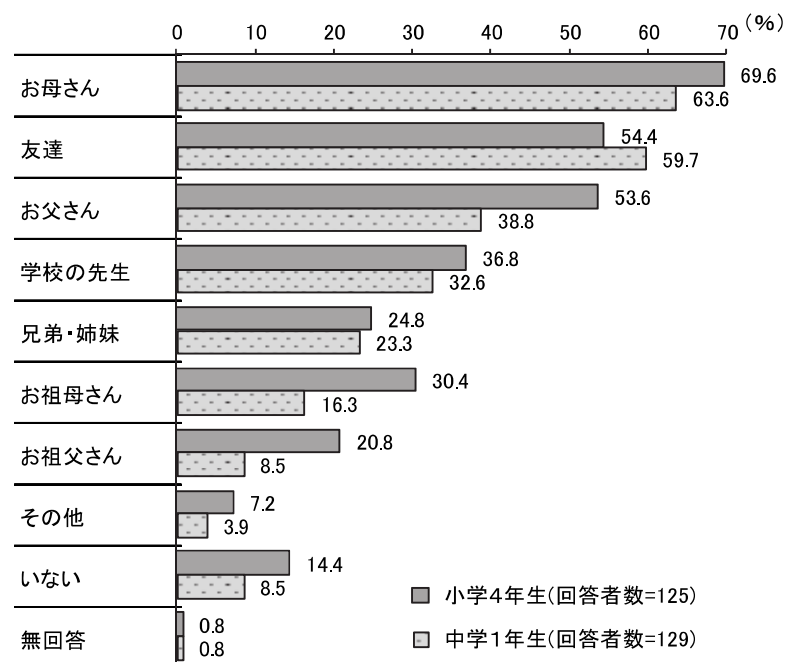
不安や悩みやつらい気持ちを受け止めて、耳を傾けてくれる人はいるか



〈小中学生アンケート調査〉

不安や悩み・つらい気持ちを受け止め、話を聞いてくれる人は、小中学生とも「母親」が最も多く、次いで「友だち」「父親」となっています。一方で、「いない」については小学4年生14.4%、中学1年生8.5%となっています。

不満や悩みやつらい気持ちを受け止め、話を聞いてくれる人はいるか



❖ 課題と方向性

①高齢者のみでなく、若い世代への啓発も必要

悩みを抱え、危機に陥った時に、誰かに助けを求めることにためらいを感じる人の割合は前回調査をやや下回りますが、男性の18～29歳、女性の30歳代といった若い世代でためらいを感じる人の割合が高く、助けを求めることが適当であるという認識を高めていく必要があります。

②生きることの包括的な支援が求められる

自殺のリスク要因を減らし、生きることの促進要因を増やすという双方の取組みを通じて自殺リスクを低下させていく必要があります。

③地域住民のゲートキーパー機能を高めることが必要

自分の周りにいるかもしれない自殺を考えている人の存在に気づき、声をかけ、話を聞き、必要に応じて専門家につなぐという意識の共有が必要となっています。

❖ 行政の取組み

- ① 自殺対策についての理解が深められるよう、自殺予防週間、自殺対策強化月間に合わせ、普及啓発を図ります。
- ② 心身のリスク、経済的なリスク、社会的リスクなど生活上のさまざまなリスクを抱える人の負担を軽減するため、相談窓口の周知・充実、就労・生活面の自立に向けて支援を行います。
- ③ 身近な地域での気づきやつなぎ役となるゲートキーパーについての普及啓発と育成を支援します。

❖ 数値目標

指標		現状値 (令和5年度)	目標値
自殺者数（現状値：令和元年～5年の5年間平均）		3.4人	2人以下
自殺率（現状値：令和元年～5年の5年間平均）		16.5	5以下
不安や悩み等、話を聞いてくれる人がいない人の割合	男性	12.0%	減少へ
	女性	5.1%	減少へ

◆ 主な事業

事業名	事業内容	担当課
ゲートキーパーの育成・養成講座	町民と職員の研修を合同で開催するなど、ゲートキーパーについての講習会を開催します。	健康福祉課 総務課
町民向け講演会・イベント開催	講演会を開催します。	健康福祉課
「自殺予防週間」や「自殺対策強化月間」の実施	「自殺予防週間」や「自殺対策強化月間」を通して、自殺対策について、リーフレットやポスターの配布、SNSなどで周知を行います。	健康福祉課
児童生徒向けSOSの出し方に関する教育の実施	小中学生を対象に命や暮らしの危機に直面したとき、誰にどうやって助けを求めたら良いか、辛いときや苦しい時は助けを求めて良いことを学びます。	健康福祉課 学校教育課
リスクを抱える人への支援	様々な分野で進められている生きる支援を自殺対策と連携させながら推進します。	各担当課

 コラム

あなたも「ゲートキーパー」になりませんか？



ゲートキーパーとは、悩んでいる人のサインに気づき、声をかけ、話を聴き、必要な支援につなげ見守る人のことです。特別な資格などは必要なく、誰でもゲートキーパーになることができます。

酒々井町では、ゲートキーパーとしての役割や適切な支援方法を学ぶための講座を開催しています。話の聴き方や相談機関へのつながり方などを知ること、身近な人を支えることにも役立てることができます。

施策の方向性 2 自殺対策推進体制等の整備

自殺対策を総合的に推進するためには、行政や関係機関、団体など地域における多様な支え手が連携し、包括的な支援を行っていく必要があります。

❖ 現 状

地域連絡会議・庁内連絡会議は開催にいたりませんでした。年に1度、庁内関係部署の自殺対策の進捗状況を調査し、自殺対策の把握に努めました。

❖ 課題と方向性

① 庁内における横断的な体制

自殺対策を全庁的に推進するため、町長を責任者とする「(仮)いのち支える自殺対策本部」において情報共有や自殺対策に取り組んでいきます。

② 地域や関係機関との連携

「誰も自殺に追い込まれることのない社会」を実現するため地域や関連機関との連携を図る「(仮)いのち支える自殺対策ネットワーク」を構築し、地域連携会議を開催していきます。

❖ 行政の取組み

- ① 「いのち支える自殺対策本部」を設置し、情報の共有を図るなど連携し、自殺対策と生きる支援関連施策に係る取組みを推進します。
- ② 自殺対策を総合的、効果的に推進するため、地域や保健・医療、福祉、教育、労働等の関係機関との連携を強めます。

❖ 主な事業

事業名	事業内容	担当課
地域連絡会議	地域の関係団体・機関との会議を開催し、地域での支援・対応方法を検討していきます。	健康福祉課
庁内連絡会議	庁内の関係部署との情報交換を行うことで、町内の自殺者や自殺未遂の状況を把握し、家族への支援や自殺防止の取組みなど、今後の町の体制や取組みについて検討していきます。	健康福祉課